

『日本の伝統芸能と民族文化財を学ぶ』

(北見真知子先生)

《1》 講座：第5回 組踊（沖縄の古典芸能の一つ）

《2》 日時：2025(R07)年 09 月 10 日(水) 10 時~12 時

《3》 場所：茨木市クリエイトセンター

《4》 参加者：受講生:32 名、CA:2 名

《5》 概要：大阪居住者には馴染みの薄い沖縄の組踊が中心の講義でした。

簡潔に整理されたパワーポに、映像などを交えてわかりやすく教えていただき、大変
ためになりました。(いつも名講義、ありがとうございます)



《6》 沖縄の地理的条件、歴史

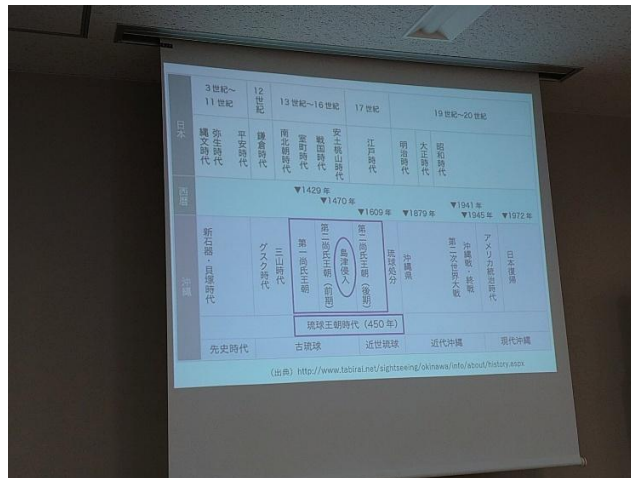
① 地理的条件。

沖縄諸島、慶良間諸島、宮古諸島、八重山諸島から成り立っている。奄美諸島は現在は鹿児島県に属しているが、琉球王国のときには含まれていた。

沖縄本島的那覇市を中心に考えると、福岡市よりも台湾や上海・福州(中国)の方が近く、東京よりもフィリピンや香港の方が近い。

② 沖縄の歴史

- ・室町時代から江戸時代にかけて 450 年間は琉球王朝として独立。
 - ・中国皇帝から地位を認めてもらっており、琉球の国王が変わると、琉球から使者をおくり、中国皇帝から新国王に王冠を授ける使が来ていた。(この使を「冊封使」という)
 - ・江戸時代になって島津の侵入をうけ、江戸幕府は、琉球王朝と中国皇帝との関係は維持させつつ、琉球を強く干渉した。
- 謝恩使：冊封使の訪問を江戸の将軍に報告、慶賀使：江戸将軍の代替わりに伺う



③ 沖縄伝統芸能の分類

- 「古典芸能」、「民族芸能」、「大衆芸能」に3分類される。
- (3 芸能とも楽器として三線を用いている)
- 本日のメインである【組踊】は古典芸能の一つ。



琉球の国王が変わると中国皇帝から王冠をもってくる使者(冊封使)がくるが、冊封使は、春の季節風に乗ってやってきて、秋の季節風で帰っていくので、かなりの期間、琉球に滞在する。

この冊封使をもてなすためと、琉球の文化力の高さを見せつけるために作られたのが【組踊】である。

④ 組踊

玉城朝薫によって創案された。琉球王府のエリート官僚で、江戸上り（**謝恩使：慶賀使**）として薩摩や江戸に滞在し、大和芸能(能・歌舞伎)に触れ、琉球では中国演劇を鑑賞。(同じ境遇にあってもただ愉しく鑑賞するだけにおわる凡人が多い中、やはり優れた人だったのであろう)

組踊のなかの「執心鐘入」のダイジェスト版を鑑賞した。

似たような大和芸能として「道成寺縁起」、「能・道成寺」、「歌舞伎・京鹿子娘道成寺」があるが、「道成寺縁起」に近そうであるとのこと。

≪7≫ その他

民族芸能の一つ「エイサー」は先祖の霊をともらう伝統行事であるが、新聞記事によると、新しい移住者からうるさいと警察に通報があった、との紹介があった。

≪8≫ おわりに

教室運営に細かい心配りをされておられる2名のCAさんに感謝申し上げます。

おかげで、いつも愉しく学ぶことができています。

(ブログ担当：5班i)